

つながりも、サステナブルに。



田代珈琲株式会社
代表取締役 田代 和弘 氏と
ホンジュラスのコーヒー農家さん



株式会社ガッツ 代表
中辻 大也 氏(右)と
カンボジアの研修員



株式会社スマイリーアース
代表取締役社長
奥 龍将 氏

SDGsが採択される前から、日本では「三方良し」の文化が古くから根付いており、顧客・社員・地域などあらゆるステークホルダーとの関わりを大切にしている企業・団体が数多くあります。

PREXは、活動を通じて、そうした皆さまの姿を目の当たりにしてきました。

今号は、PREXのウェブサイト「PREX SDGsプラットフォーム」と連動した特集です。

作って売るだけじゃ、ダメなんだ。



アフリカの研修員と奥社長

自分たちがたどった失敗を繰り返してほしくない。 日本の技術と友情が育む持続可能な未来。

国際交流部の狭間です。

株式会社スマイリーアースは、家族4人で化学薬品を使用しないタオルを製造販売する企業です。ウガンダ産オーガニックコットンの輸入・販売ロジスティクス事業も手掛けています。

投資促進・ビジネス環境整備の研修では、奥社長から、同社が位置する大阪府泉佐野市の繊維産業の発展の裏で生じた環境汚染問題の歴史も踏まえ、環境に配慮し、尚且つ地域内の農林水産と調和した資源循環型タオル製造法を構築したというお話をいただきました。

研修員に対して、経済発展の先にあるものを意識し、自国の特徴や文化を重んじた政策づくりを行うよう助言いただいたことが、とても印象に残っています。各国の研修員は、産業振興を目指すと同時に、環境への配慮の重要性を学んだと思います。特にウガンダからの研修員はスマイリーアースへの訪問を大変喜んでいました。

「PREX SDGsプラットフォーム」では、ウガンダとの出会い、究極のオーガニックタオルづくりへの想い、10年以上も及んだ研究と技術開発のご苦労、がんばり続けた理由をインタビューしました。

どんな質問をしても、嘘偽りのない明解・明確な回答が返ってくる。言葉と行動がすべて一致している。奥社長のお話はビジネスを超え、人と人との関わりや存在意義、あり方等多岐にわたる内容で非常に勉強になりました。

奥社長が率いるスマイリーアース社の独自の価値観や世界観がわかる壮大な実験場「スマイリーアースパーク」も見学できる工場見学体験ツアーにも取り組まれていますので、是非とも足を運んでみてください。同社が繋いできた「日本とウガンダの綿の絆」を体感できる素敵な空間に、皆さんも驚かれることでしょう。

SDGsプラットフォームに近日中に公開予定です。
(国際交流部 狭間)



2050年、美味しいコーヒーが飲めなくなる?!

ニカラグア国マンマミーナ農園の方と話す田代社長

いつまでこの価格で美味しいコーヒーが飲めるのか？ 品質や人件費と価格のバランスを見極める。

国際交流部の荒木です。

美味しいコーヒーを消費者に届けることに全力を尽くす会社、田代珈琲株式会社。

中南米・アジア・アフリカの農家から直接仕入れた品質の良いコーヒー豆を阪神百貨店・田代珈琲本社・オンラインショップで販売する東大阪の会社です。カフェへの卸売りもされています。

PREXの研修では、中南米や中央アジアなど多くの行政官や経営者が同社を訪問し、田代代表取締役から、大量消費の価格競争時代に社長となり、スペシャルティコーヒーに舵を切ったこと、農家からの直接買い付けを始めたこと、お客さんや生産者、社員への想いなどをお話いただきました。

どの研修員も、社長のお話とコーヒーの美味しさに大感激でした。

「PREX SDGsプラットフォーム」では、田代社長の人生と経営、コーヒーの未来のお話をご紹介しました。

収穫直後のコーヒーチェリー1杯80粒?!

10杯で800粒、100杯で8,000粒。それを手作業で選別しながら摘んでいるので、かなりの人件費がかかります。また、地球温暖化による気候変動の結果、2050年にはアラビカ種がほとんど栽培できない状況に陥るとされています。世界で飲まれているコーヒーのほとんどがアラビカ種かカネフェラ種の一種ロブスタで、スペシャルティコーヒーはアラビカ種が多いですが、アラビカ種は、気候変動に強い品種ではありません。

農家では、コーヒーの木自体を栽培できないことの方が大きな課題なので、コーヒー自体がなくならないよう品種改良・開発・植え替えが行われています。コロンビアでは、すでにほとんどの農家がアラビカ種から新しい品種に植え替えているそうです。(国際交流部 荒木)



SDGsプラットフォームでインタビュー詳細を紹介しています。ぜひご覧ください→





つながらなければ、
どれひとつ生まれてはこなかった。

株式会社ガッツ 中辻社長と奥様

地球環境、栃木レザー、手塚作品、お客さま、 すべては人との出会い、つながりから始まった。

国際交流部の児島です。

ご夫婦で立ち上げられた革製品ブランド、クアトロガッツ。

環境に配慮されている革を使ったモノづくりをされていて、看板商品は「小さいふ」。

PREXでは、これまでに何度か経営者対象の研修でお世話になったことがあります。

クアトロガッツ誕生のお話が面白くて、商品に込める想いが素敵すぎて、PREXの職員が知っているだけでは、勿体ない！

もっとたくさんの方にクアトロガッツを知ってもらいたいとの想いから、インタビューが実現しました。

SDGsが社会に浸透してきた今でこそ、使われている素材は環境に配慮されたものかどうかに関心を寄せる人も増えてきました。

社会の意識が変わり始める前から、栃木県のハシモト産業株式会社の「栃木レザー」との出会いで、自分たちが良いと思った選択を信じて続けてきたクアトロガッツ。

また、平和への想いを込める取り組みと「信念」のお話やコラボレーションの秘訣として、「自他共の成長と幸福」という基準について伺いましたが、クアトロガッツの一貫した揺るがない、皆に優しい「想い」に、多くのファンが魅了されるのだと思います。

クアトロガッツの誕生のお話から、モノ作りに込める社会への想い、コラボレーションの魅力など、盛りだくさんのインタビューにご対応いただきました。(国際交流部 児島)



環境に配慮されている「栃木レザー」の素材をメインに革のモノづくり



平和への祈りを込めた「小さいふ」も。

SDGsプラットフォームで
インタビュー詳細を紹介しています。
ぜひご覧ください→



PGNで、帰国後もつながり続ける研修員との絆。

PREXは日本での研修に参加した研修員とのネットワークの維持・強化を図るため、2019年に同窓会組織を改編し、PREX Global Network(以下、PGN)を立ち上げました。

それまで限定された国・地域のみで設立した同窓会を、全世界の研修員が加盟できる1つのグループとすることによって、国・地域を超え、業務・事業分野や専門性などに応じた研修員同士の交流を目指したものです。

これまでも同窓生同士の交流を促進するために様々な取り組みやイベントを開催してきましたが、今年度は「PGN Cafe」と銘打ち、「Cafe」の名前の通り「お茶でも飲みながら気軽に話してみよう、会ってみよう」という小さなオンライン交流会を12月までに5回開催しました。

開催形態は、Zoomを利用したオンラインミーティングです。各国との時差を考え、早朝や夜も含めいろいろな時間帯に1時間ほど開催しました。共通言語で使える人数が一番多い英語での開催です。

PGN Cafeを開催すると、意外や意外。直近の研修に参加した人が来てくれたのはもちろん、一番古くはなんと1998年に参加した方もいました。他にも、2010年代の研修に参加した同窓生たちが毎回1、2名は来てくれました。日本での思い出、印象に残った講師や訪問先、研修に参加した時はどんな気持ちだったかなど、いろいろな思い出話にも花が咲きました。

そして、チャレンジしたいことは？と将来に向けて質問をすると、「持続可能な観光振興についてプロジェクトを立ち上げたい」、「日本での研修が刺激になって海外に留学した、今は新しい場所で生活をしているがチャレンジを続けたい」など、未来に向けた話題が続々と出てきました。

私たちは研修員が日本にいる間は、いい学びの時間が持てるよう、新しい発見ができるよう、全力を尽くしプログラムをコーディネートしています。しかし、帰国後の状況を追いかけるには研修員の数も多く、実際にその国を訪問するにも時間や経費などの制約もあります。

PGN Cafeを通じて、帰国後の状況を知ることができ、同窓生同士がつながってくれるのが嬉しいのと同時に、私たちのこれまでの仕事はどう受け止められているかを振り返り、自分たちが励まされる場にもなりました。

今後は、ここまで実施したこのPGN Cafeをどうしていくのかを検討するとともに、より良くしていきたいと思います。どんな形になったとしても、同窓生の皆さんがふと立ち寄りたくなる場所、PGN Cafeのドアはいつでも開けておけるよう今後も活動が続けていきたいと思います。(国際交流部 関野)

年月や距離を越えて オンラインでの再会。

■開催日時と参加国

第1回：2024年7月16日 午後7時～8時

アンゴラ、キルギス、ガーナ、シンガポール、セネガル、
タンザニア、ブラジル、モザンビーク（計8名）

第2回：2024年8月27日 午後7時～8時

ナイジェリア、ガーナ、セネガル（計3名）

第3回：2024年9月27日 午後4時～5時

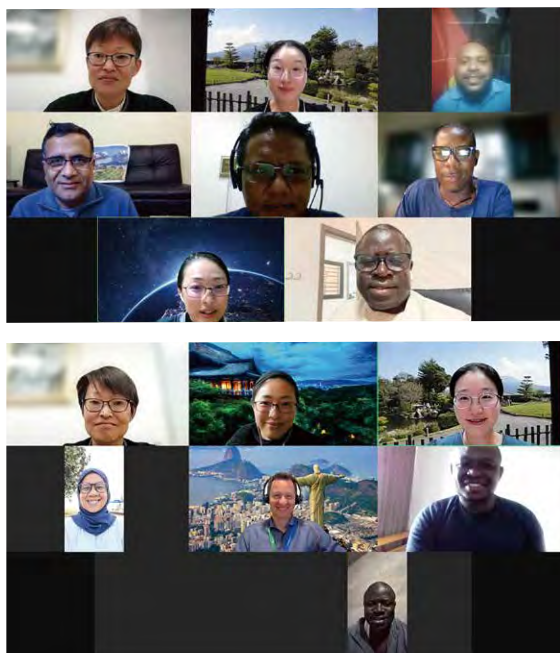
セネガル、ナイジェリア、ベトナム、ミャンマー（計4名）

第4回：2024年10月29日 午前8時～9時

アルバニア、シンガポール、マレーシア、セネガル、
ナイジェリア、ブラジル（計8名）

第5回：2024年11月26日 午後6時～7時

セネガル、セントルシア、ネパール、パプアニューギニア、ミャンマー（計6名）



詳細は
こちら→



共に学び、学びを深め、つながる。



アセアン各国の企業・経済団体幹部が集まり、同じ経験を共有し、未来に向けて意見を交わし合う「共に学ぶ」研修。

国際交流部の中山です。2024年12月に、昨年度に引き続き関経連アセアン経営研修を担当しました。

この研修は1980年からスタートし、これまで450名以上の企業幹部が参加しており、今回が45回目の開催です。研修テーマは「万博後に実現したい未来社会、及びとるべきアクションとは」。

開催趣旨は①参加者が各国の経営の課題を認識し、共に学び、日本の事例を知る、②プログラムを通して国や文化を超えた交流を行い、相互連携の基盤を作り、今後の関係強化に繋げる、です。

最初にオンラインで 2025日本国際博覧会協会から万博の内容をご紹介いただき、来日した翌週は、リアルで100年以上続く長寿企業として独自の人材育成の仕組みを持つ「羽車」、人権・CSRに力を入れる「ミキハウス」、社内イノベーションで独自製品を開発している「錦城護謨」の3社から経営課題への取り組みについてお話しいただきました。

また、複数の有力なスタートアップ企業の紹介を受けたり、関西文化学術研究都市推進機構、国際電気通信基礎技術研究所、日本ニューロンからのお話を聞き、関西の最新技術動向についての講義と視察、パナソニックミュージアムで日本の技術動向の歴史も紹介いただきました。

さらに、それ以外にさきしまコスモタワー展望台からの万博会場見学、プレジデント千房シェラトン都ホテル大阪店でのお食事体験、福寿園CHA遊学パーク見学を通じて、日本の文化や社会他にも触れてもらいました。

今回の参加者は積極的で各セッションでの質疑応答もかなり活発でした。また参加者同士は、非常に仲が良く、最初から最後までとても良い雰囲気を維持できたのは、学びを深める意味でも大変良かったと感じました。

(国際交流部 中山)



フェアウェルパーティーでの集合写真。
写真中央はPREX大坪会長、
右から一人目はコースリーダーの後藤教授

詳細はこちら→



ベトナムの高度人材とつながり続ける。



従業員は16名のうち、12名がベトナム人です。ベトナムの方の考え方から緊急納期や短納期への対応が可能となったと言えます。

株式会社大福鉄工所 代表取締役の大福です。

当社は1948年11月創業の大型機械部品製造、製缶、溶接の会社です。部品加工メーカーとして60年以上の歴史があり、培われてきたノウハウが多数あるため加工が難しい耐熱鋼も対応可能ということが当社の強みです。社員の技術スキルをより高めるために、OJTで教育するとともに、積極的に国家試験の受験を勧めています。

経営理念は「一貫生産でニーズの多様化に満足と信頼をお客様に与える」です。

また、当社の従業員は16名のうち、12名がベトナム人です。

ベトナム人の「高度人材」との出会いは1999年でした。最初は技能実習生を、人材紹介会社から紹介してもらって、試用期間として働いてもらいました。その後、「高度人材」を人材紹介会社を通じて紹介してもらいました。現在はベトナム人工場長を通じて、そのネットワークで独自でリクルートしています。

ベトナム人従業員の特徴としては、高度人材であっても経済的に豊かになりたいと思う人が多いため、残業を厭わずやってくれるということです。また、帰国後の生活の安定につながるよう、自分自身の技術向上などキャリアづくりの意識が強いという面もあると思います。当社は、こういうベトナムの方の考え方もあって、緊急納期や短納期への対応が可能となったと言えます。

ベトナム人の工場長は、初期の頃に採用した高度人材だったのですが、当社への帰属意識が高いことや、夫婦で当社に勤務していることなどがあり、継続的に勤務してもらえるという期待もあったため、工場長に任命しました。将来的には、日本国籍を取得することと考えているようです。当社には継承者がいないことから、私の継承者候補としても考えています。昨年の決算後に取締役工場長として任命しました。

(株式会社大福鉄工所 代表取締役 大福 豊氏)



株式会社大福鉄工所
代表取締役 大福 豊氏



外国人社員が活躍する企業インタビュー詳細を紹介しています。
ぜひご覧ください→



英会話にダイエット・・・三日坊主を繰り返してきた人生ですが、『続ける』ということはとても大事だと実感する今日この頃です(笑)。人もまた同じで、出会ってからも『つながり続ける』ことはとても大切です。SDGsにおいてサステナブルの視点が重要であるように、PREXもまた研修をやり続け、帰国研修員とつながり続けたいと思っています。今号でそんなことを感じていただければ幸いです。お読みになられた皆様のご意見ご感想もぜひお聞かせください。お待ちしております。
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

「世界に広がる3S文化」を報告

11月13日、インテックス大阪で開催された「未来モノづくり国際EXPO2024」の中で、3S活動推進協会による「世界に広がる3S文化」と題したセミナーが開催され、「海外から見た日本の3S」の一例として、PREXからもPGNメンバー(同窓生)の活躍を報告しました。



「3S・改善活動がつなぐ世界」と題した報告では、カザフスタンのグルミラ・ムカノバさんが現地企業へ指導し実践されている「3S、改善活動」事例や、シリアでの戦争の影響で自社工場が破壊された後も、日本で学んだことを自国で広めたい、それが自分の人生を照らす灯りになると考え、今も精力的に「3S、改善活動」のセミナーやワークショップを実施しているイマード・ハイダールさんを紹介しました。最後に「日本の3S・改善活動は世界に広がり、それぞれの国で受け入れられ、世界と日本を繋いでいる。それぞれのゲンバで日本からの学びを伝え続ける情熱ある仲間が活躍している。今後さらに世界に3S・改善活動が広がることで、企業間の共通言語の一つになり、企業間交流の拡大に繋がることが願います」というメッセージで報告を締めくくりました。(国際交流部 瀬戸口)

アフリカの研修員と三線の生演奏

2022年に企業から出向し、人材育成研修を担当していますが、実は英語が苦手、研修のたびに名前を覚えてもらうのに苦労していました。そんな私が、ある日、大きな壁を乗り越える出来事がありました。それは、アフリカから来日された方々との交流です。大阪市大正区で、ご対応いただいた方の温かい心遣いで、沖縄料理のお店に連れて行っていただいたのです。お店では、なんと三線の生演奏が！アフリカの方々は、その音楽に体が踊り出すよう。私も調子に乗って、阿波踊り(のつもり)で踊ってみました。それが意外と大好評！(と思っている)。名前を覚えてもらえるようになったのは、この日からでした。言葉が違って、音楽や踊りは人を繋ぐ力があることを実感しました。もしかしたら、研修のアイスブレイクに、踊りを取り入れるのも面白いかもしれません。(国際交流部 荒木)



11月～1月に実施した研修

●立命館大学 国際関係研究科 JDS特別プログラム 地方行政を学ぶフィールドトリップ
カンボジア、ガーナ、キルギス、ネパール、ベトナム、ブータン、モルディブ、ラオスの立命館大学 国際関係研究科 博士課程(前期)の留学生(本国では行政機関、民間企業等に勤務)18名が参加。

●JICA中小企業振興政策(B)
カメルーン、エチオピア、ガーナ、ケニア、マリ、ルワンダ、セネガル、ソマリア、ザンビアの中小企業振興に携わる中央省庁、地方自治体の行政職員、商工会議所等の公的支援機関等の職員9名が参加。

●第45回関経連アセアン経営研修
タイ、カンボジア、ラオス、ベトナム、ミャンマー、ブルネイ、マレーシア、シンガポールの関西経済連合会海外カウンターパートナー機関推薦企業・経済団体幹部14名が参加。

ワンフェス2025に参加

2月9日、大阪梅田スカイビルで開催された国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」にプログラム参加しました。今回は、単独無寄港ヨット世界一周で世界に伝えたかったこと～環境ソリューション企業、株式会社浜田の挑戦～と題して、株式会社浜田の企画管理部経営企画課長篠崎氏、O&M技術開発部技術開発課木村氏をお迎えし、単独無寄港ヨット世界一周とそれを支えた企業の魅力、多様なキャリアパスなどについてお話いただきました。(国際交流部 狭間)



PREX NOW第279号(2025年3月発行)
編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター
専務理事:岡本 譲
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850
ウェブサイト:<https://www.prex-hrd.or.jp>
E-mail:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp
企画制作:ユナイテッド・トゥモロー